県産材の玩具を活用した木育の取組

青森県中南地域県民局地域農林水産部林業振興課　主幹　三上 真希

１．はじめに

中南地域県民局管内では、「特定非営利活動法人弘前こどもコミュニティ・ぴーぷる」が木育に取り組んでいたことに加え、平成２４年度に県内初の木育キャラバンが開催され、さらに、平成２５年度には「弘前市駅前こどもの広場」に地元の木工業者が製作した木製玩具・遊具が常設されるなど、木育の取組についての機運が高まっていた。

一方、青森県の津軽地域においては、昔から「木材と言えばヒバ」という考えが根づいており、豊富にあるスギが積極的に利用されなかったことから、スギを始めとした地域材の利用促進が森林・林業の課題の一つとなっていた。

このような背景から、スギを中心とした地元の木に親しみ、木の良さを市民に伝えることにより、地域の木材利用につなげていくことを目的として、平成２６年度から木育の取組を始めることとした。

内容は、これまで県内全域で実施してきた小学生から大人までを対象とする「森林・林業体験」や「木工教室」の活動を補完・発展させるものとして、「主に未就学児を対象として木製玩具を活用する」木育として取り組むこととした。

２．取組の内容

（１）Ｈ２６～Ｈ２７年度（県単独事業）

- 事業で取り組む木育を「子どもの頃から木を取り入れた生活の中で、木と森に親しみ、人と、木や森のかかわり、森林づくりの大切さを考えられる豊かな育む活動」とした。
- 県産スギ等で製作した木製玩具やグッド・トイに選ばれた木製玩具を活用し、未就学児に対する木育や取組の普及啓発を行った。
- 実施にあたっては、木育インストラクターを擁するＮＰＯ「弘前こどもコミュニティ・ぴーぷる」と連携し、意見交換を重ね内容を工夫した。

①県産材玩具の製作・活用

活用した玩具・遊具約５０種のうち、半数は中南管内の３木工業者が製作した県産材玩具で、県民局からの意見も取り入れ新たに１２種類を製作した。

②保育園・幼稚園での木育一日体験

- 管内の７市町村の幼稚園・保育園を対象として参加園を募集し、希望があった全２５園において玩具の遊び体験などを実施した。
- １園当たり１時間半前後で、「木育インストラクターから森と木のお話～絵本と玩具を組み合わせた導入～玩具紹介・自由遊び～片付け～ふりかえり」の内容を実施した。

・参加者は、０～５歳の園児約 1,400 人、大人（保護者・保育士・教諭等）600 人で、保護者と園関係者にはアンケートを実施した。

③木育モデル園での活動

・木育一日体験を行った２５園の中から、５保育園を木育モデル園として選定し、年間を通じた活動を行った。

・活動内容は、「木製玩具での遊び体験」、「植物観察」、「木のものづくり」を組み合わせたものとし、玩具になる前の木にも触れていただいた。

写真１　県産材玩具で遊ぶ子ども達

④指導者向けの研修等

・未就学児を対象とする木育を実施する指導者向けの研修を２回実施し、講義、事例発表、意見交換等を行った。

・これから木育を始める方向けに、木育モデル園での取組結果等を基に、活動の進め方やポイントをまとめた「木育手引書」を作成した。

⑤市民への普及啓発

・県産材の玩具と触れあえる場所や機会を提供し、「木育」について普及啓発した。

・市町村のイベント会場での木育広場や弘前市駅前こどもの広場での「木育の日」を実施し（２年間で 25 回）、約 10,000 人の参加があった。

写真２　子どもたちのための「木育」手引書

写真３　普及啓発として木育広場を実施

（２）Ｈ２８年度以降

２年間の活動が好評であったことから、木製玩具の貸出等による木育への支援や普及啓発を継続している。

①木製玩具の貸出し等の支援

【14 回・4,500 人参加（H28～H30 の平均）】

②関係機関と連携し、弘前市駅前こどもの広場等で普及啓発を継続している。

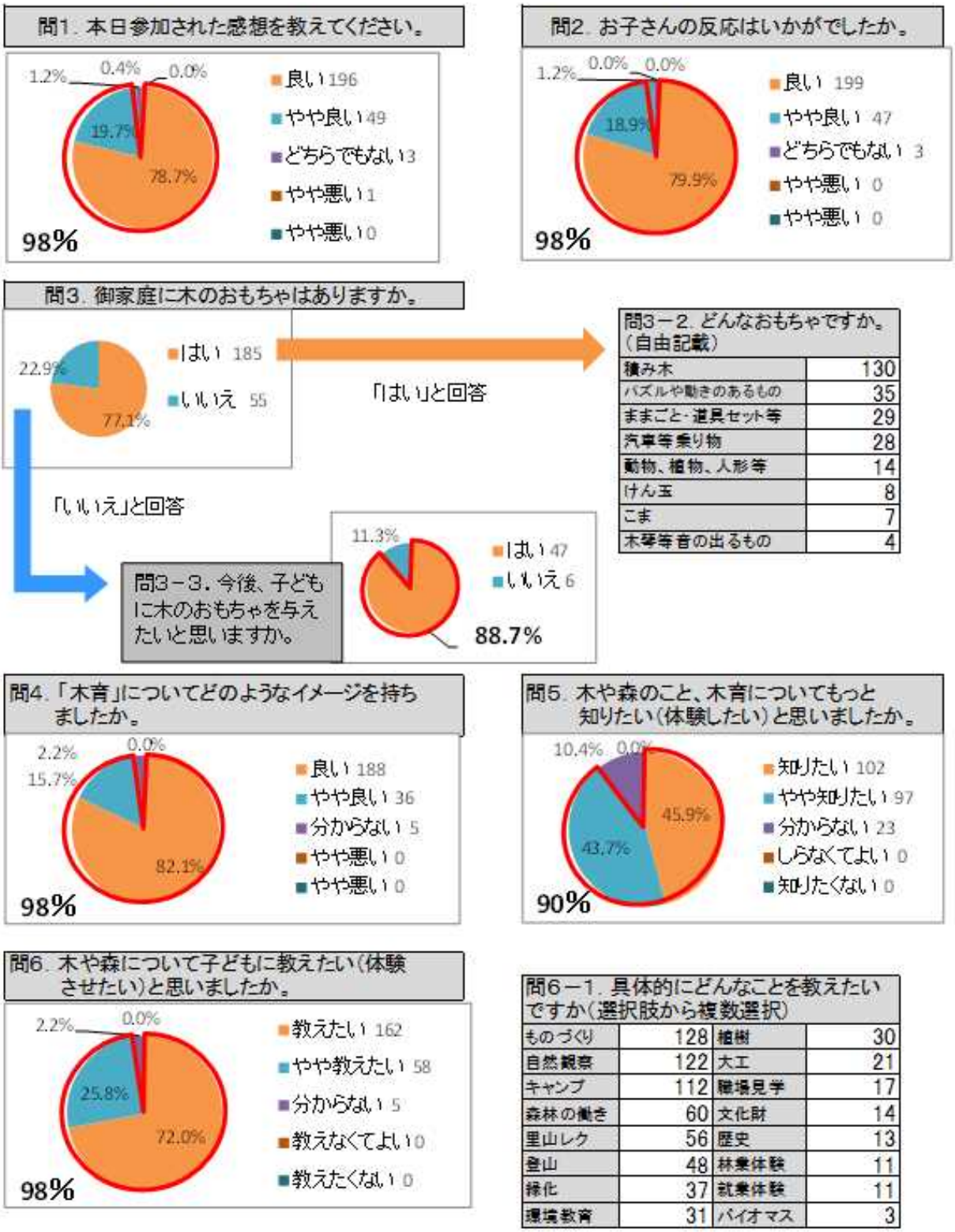
写真４　玩具貸出し時の事前説明の様子

３．取組の成果

子どもから高齢者まで幅広い世代を対象として、木材や県産材の魅力をＰＲし、参加者から木製玩具や木育の取組に高い評価をいただいた。

（１）県産材玩具の魅力発信

①　木育一日体験の実施結果



積み木	130		
パズルや動きのあるもの	35		
ままごと・道具セット等	29		
汽車等乗り物	28		
動物、植物、人形等	14		
けん玉	8		
こま	7		
木琴等音の出るもの	4		

ものづくり	128	植樹	30
自然観察	122	大工	21
キャンプ	112	職場見学	17
森林の働き	60	文化財	14
里山レク	56	歴史	13
登山	48	林業体験	11
緑化	37	就業体験	11
環境教育	31	バイオマス	3

図１　木育一日体験参加者へのアンケート結果

【木育一日体験のアンケート結果】

ア　保護者の感想（９園 216 人の保護者から回収、選択・自由記載による各設問への回答）

木育一日体験教室に参加した感想、木育に対するイメージについては、「良い（楽しい)」（やや良いを含む）と回答した割合が９７％、家庭での木製玩具の使用について、「家庭に木製玩具が「ない」と答えた３３％のうち８９％が「今後子どもに木製玩具を与えたい」と回答した。

また、木や森のこと等については、「自身がもっと知りたい(やや知りたいを含む)」と回答した割合が９０％、「子どもに教えたい」と回答した割合が９８％であった。

木製玩具に対する感想の自由記載では、「(他の素材に比べ）自然、安心・安全、壊れにくい、長く使える、子どもの発想力・創造性・集中力を引き出す、子どもに良い影響を与える、年齢に関係なく楽しめる、子どもの表情が穏やかだった」等の感想があった。

木育に対する感想の自由記載欄では、「自然に触れる感じがする、様々な感覚を味わえる、五感を刺激して子どもが育つために必要、木の奥深さを実感した」等の感想があった。

イ　保育士・教諭等からのアンケート（記載による各設問への回答）結果

子ども達の反応については、「興味・探究心を湧かせた、またやりたいという意見が多かった」等の感想があった。

木製玩具を使った木育の効果については、「玩具にどのように変化するのか考える姿が見られた、工夫しながら遊びを発展させていた、創造が広がる一面があった、身の回りの木や木製品に目を向ける子が増えた」等の感想があった。

園が木育に取組む場合の課題については、「教師自身に木育に対する基礎知識が備わっていない、家庭にも発信し保護者の方との共通理解が必要、玩具が高額」等の意見があった。

今後望む支援については、「講師による訪問指導、人材育成・派遣への補助、教材（玩具、絵本、紙芝居）の貸出、玩具を揃えることへの補助」等の意見があった

自由意見では、「今回体験した子ども達はとても幸せだった。これからも何らかの形で続けて大自然の良さ大切さを伝えていくべき。」等の取組の継続を望む回答もあった。

（２）木育の普及

・保育園等での活動や普及啓発には多数の参加者があり、木育が中南地域に広く普及した。

【H26～H30 までのイベント参加者数：延べ 27,000 人】

・H26、27 年度に普及啓発として木育広場を実施した後、自主的な取組として木育広場が実施されるなど、関係機関や研修参加者による取組が行われている。

【H28 以降の玩具活用機関：１２機関

（ＮＰＯ、保育園、企業、林業関係団体、国、市町、県)】

（３）関係分野の連携

・木工、子育て、保育、幼児教育関係者など関係分野の連携が深まり、グッド・トイ関連のイベントに県産材玩具が参加するなど新たなつながりも生まれている。

（４）玩具の活用

・製作した玩具の商品化、活動園等からの玩具注文、ウッドスタートへの参画、各種イベントなどにおける玩具の活用につながった。

４．今後の取組

・森林・林業関係者のみの取組ではなく子育て関係機関と連携した活動を継続する。

・新たに活動を始める機関等に対しては、木育の背景や森林・林業への理解を深めていただくよう丁寧に支援する必要がある。

・木製玩具だけではなく、建築物等への利用など身近な生活における木材利用をＰＲする必要がある。